

## 5.1 第1次診断法による耐震診断例

### (1) はじめに

壁式鉄筋コンクリート造設計施工指針 ((財)日本建築センター、1983年)<sup>1)</sup> (以下、「センター設計例」という。) に掲載されている壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造5階建共同住宅の1階桁行方向および梁間方向の耐震診断を第3章3.1節 第1次診断法を用いて行う。なお、構造設計関連の詳細については、上記文献を参照されたい。

### (2) 建築物概要および使用材料等

#### (a) 建築物概要

図5.1.1に基準階平面図と断面図を示す。桁行方向は3構面で、耐力壁と壁梁から構成されており、梁間方向は無開口の連層耐力壁架構とフォーク型耐力壁架構から構成されている。耐力壁の配置、長さならびに耐力壁の符号を図5.1.2に、各構面の軸組を図5.1.3に示す。

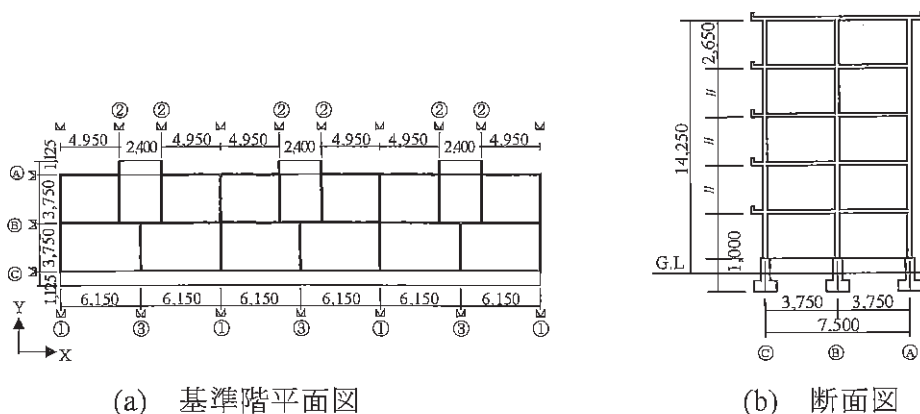
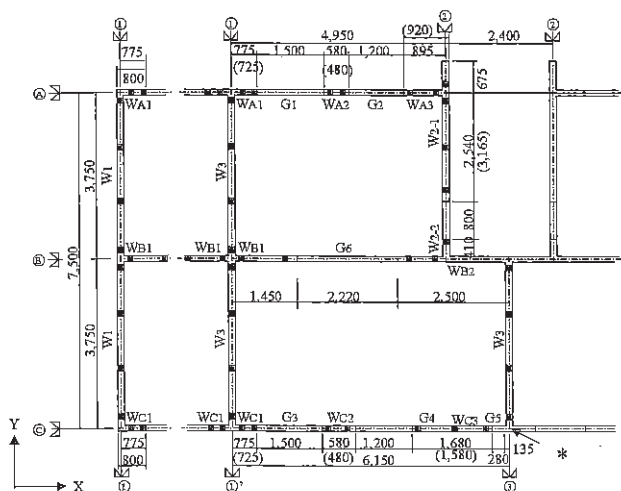


図 5.1.1 WPC 造 5 階建共同住宅建築物の基準階平面図および断面図<sup>1)</sup>



\*: 長さが 170mm で 450mm 未満であり、耐力壁とみなさない。

[注] ( ) 内は、サッシ枠寸法 50mm を差引いた実長

図 5.1.2 耐力壁の配置、長さ、符号<sup>1)</sup>